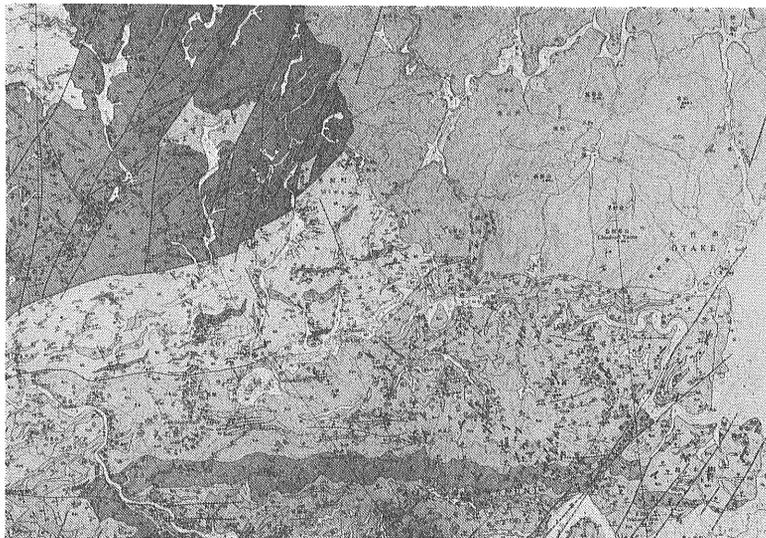


大竹地域は中国地方の西寄りの瀬戸内側に位置し 広島県と山口県にまたがる地域です。 臨海部の三角州や干拓・埋立地は工業地帯となっており 石油・化学・パルプなどの工場が立地しています。 内陸部はほとんどが山地で 自然景観にすぐれており 特に北東部の花崗岩山地には 名勝弥栄峽天然記念物のおう穴(蛇喰盤)や自然公園があり 多くの市民の憩いの場となっています。 地質的にも 最近急速に研究が進んでいるジュラ紀の玖珂層群と美川層群 古生代の三郡変成岩類 白亜紀の花崗岩類 美和低地の段丘などと見所が多く 地質巡検の好適地ともなっています。



地質構造区分から見た場合 本地域は三郡帯と領家外縁帯との境界部に当たり 三郡帯の地層が北西部に 領家外縁帯の地層が南部に分布しています。 白亜紀の広島花崗岩類がそれらを貫いて北東部や南東部などに分布しています。

三郡帯は主として片状でよく再結晶した三郡変成岩類(都濃層群)からなり 一部に再結晶の弱い弱変成古生層(錦層群)が分布しています。 錦層群は二疊紀中-後期の地層で 都濃層群はそれより前のものです。 錦層群は低角度の断層を境にして都濃層群の上のっています。 両層群の模式地は本地域の西方にありますが 本地域でも本郷川沿いの県道際や本郷から羅漢山に通じる遊歩道沿いにはよい露頭が見られます。

領家外縁帯は 都濃層群(三郡変成岩類)の南に1.5~4kmの幅で带状に分布する美川層群と 更にその南に発達する玖珂層群とから構成されています。 美川層群と玖珂層群とはともにジュラ紀の地層で 主として泥質の海底地すべり堆積物(オリストストローム)からなり チャート・砂岩・石灰岩・緑色岩類・珪質泥岩・泥岩などのオリストリスないしは異地性岩体を挟んでいます。 美川層群の石灰岩は二疊紀の紡錘虫 チャートは二疊紀-三疊紀のコノドント 泥質岩は三疊紀-ジュラ紀前-中期の放散虫をそれぞれ産し 一方 玖珂層群の石灰岩は二疊紀の紡錘虫 チャートは三疊紀のコノドント ジュラ紀の放散虫泥質岩はジュラ紀前-後期の放散虫 砂岩は三疊紀の二枚貝・ジュラ紀後期のアンモナイトをそれぞれ産します。 これらの化石産地はほとんど本図幅地域にあり また 両層群の岩相や層序もよく分かるため 本地域は両層群の模式地となっています。 大竹地域の地質図には上記の化石産地も記入されており 研究報告書には露頭の写真やスケッチも載せられています。

白亜紀の広島花崗岩類は 弥栄峽花崗岩 岩国花崗岩 土生花崗閃緑岩などに区分されています。 そのうち 弥栄峽花崗岩は山陽地方に広く分布する 広島花崗岩体の西端部に当たり 本地域の北東部に広く露出しています。 花崗岩岩体に接する都濃層群・美川層群・玖珂層群はホルンフェルスとなっており 堇青石や紅柱石が見られます。

美和低地には 第四紀の段丘堆積物が分布し 浜前では河川争奪によってできた風隙地形を見ることが出来ます。

大竹市小方から 岩国市関戸にいたる断層谷は 岩国活断層系に属する大竹断層の一部をなしており 地質巡検の見所の一つ

です。

なお 本地城南隣の5万分の1「岩国」図幅は1983年に公表されていますので 併せて読まれることをお勧めします。



5 万分の 1 地質図幅の新刊

大 竹
ÔTAKE

5 万分の 1 地質図幅 地域地質研究報告



著 者 東元定雄・高橋裕平・牧本 博・脇田浩二・佃 栄吉

発 行 工業技術院 地質調査所

取 扱 先 東京地学協会 (03) 261-0809 262-1401

そのほか全国主要書店

販売価額 2,820円

地 質 ニ ュ ー ス	第 385 号	9 月 号
昭和61年9月1日	定 価 ￥ 630	千 実 費
編 集	発 行	
編 集	工業技術院地質調査所	
発 行 人	林 久 雄	
発 行 所	株式会社 実業公報社	
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	〒 102	
	Tel. (03)265-0951 (代表)	
	振替口座 東京1-32466	
総発売元	株式会社 実業公報社	
	出版事業部	